

令和5年度(令和4年度実績)

鳥羽市教育委員会の事務に関する

点検・評価報告書

令和 6 年 2 月

鳥羽市教育委員会

目次

第1章 基本事項

I 鳥羽市が目指す教育	1
II 教育委員会の事務に関する点検・評価	1
1. 趣旨	1
2. 点検・評価の対象	2
3. 点検・評価の方法	2

第2章 点検・評価事項

I 教育委員会の運営状況	3
1. 教育委員会の構成	3
2. 教育委員会の会議	4
3. 活動の周知及び情報発信	6
4. 教育委員の自己研鑽	9
5. 教育委員会だより	9
6. 情報公開について	10
7. 総合教育会議について	10
8. 教育委員会の運営に対する外部評価	11
II 「第2次鳥羽市教育ビジョン」の取り組み	12
【施策1】しっかり学ぶ子どもを育てる	12
【施策2】子どもの未来の礎となる鳥羽ならではの教育の推進	20
【施策3】多様な個性を認め合う豊かな心と健やかな体を育てる	23
【施策4】地域・家庭とともにある園・学校づくり	31
【施策5】生涯学習やスポーツの推進	39

■ 第 1 章 基本事項

I 鳥羽市が目指す教育

多様な社会を生き抜く、
知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成

本市は「誰もがキラめく鳥羽 海の恵みがつなぐ鳥羽」を将来の都市像に掲げています。次代を担う本市の子どもたちは、その実現のための大きな力になることは間違いありません。子どもたちが輝く未来のために自分を磨き、人間性と創造力を豊かにし、社会参画意識と行動力を高めることができる環境を整えていくのは、大人の責務です。

本市では、「多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成」を目標とし、学校・園・家庭・地域のさらなる連携のもと、未知の課題へ直面する子どもたちに育むべき力を明確にし、取り組みを進めます。

そのために、学校教育を充実させ、地域全体で取り組む教育を推進し、生涯学習・スポーツの振興を図っていきます。

II 教育委員会の事務に関する点検・評価

1. 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する方の知見を活用した点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされています。

教育委員会では、法の趣旨に則り、効率的かつ効果的な教育行政の推進を図るとともに、教育委員会の責任体制の明確化を図り、市民の方々への説明責任を果たすために、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行い、報告書として作成しました。

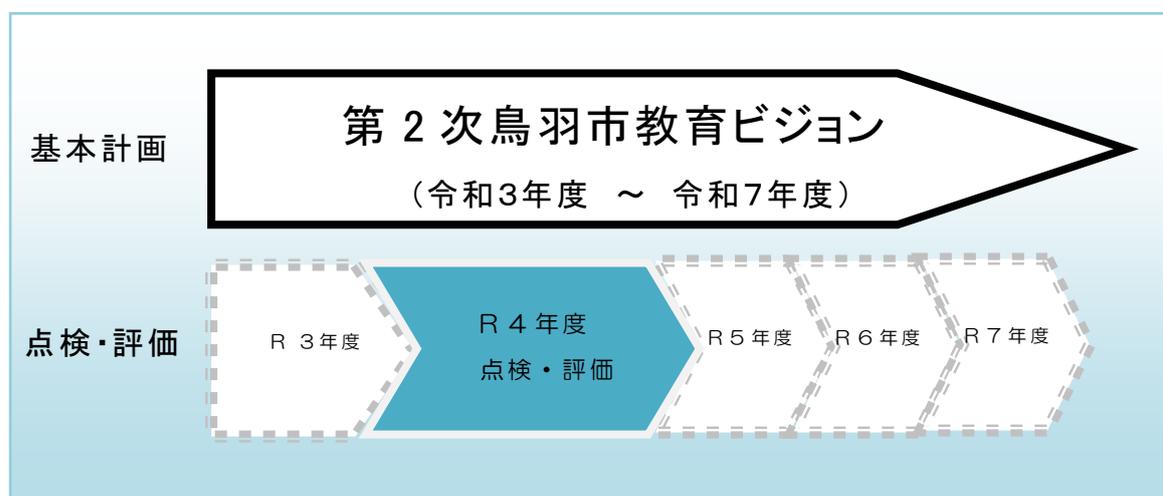
【参考】 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2. 点検・評価の対象

本報告書では、令和4年度鳥羽市教育委員会の運営状況および「第2次鳥羽市教育ビジョン（令和3年度～令和7年度）」に基づく、令和4年度の主な取組を点検・評価の対象としました。



3. 点検・評価の方法

教育委員会の運営状況および「第2次鳥羽市教育ビジョン」に基づいて行った令和4年度の事務（教育委員会が管理・執行する事務）に関し、成果指標などに基づいて自己評価を行った後、教育に関する学識経験者から意見聴取を行いました。

点検・評価報告書については、議会への報告と市ホームページへ掲載し、公表します。

【学識経験者（外部委員）名簿】

氏名（敬称略）	役職等
市田 敏之	皇學館大学准教授
福井 光生	元小学校長

■第2章 点検・評価事項

I 教育委員会の運営状況

1. 教育委員会の構成

令和4年10月1日付けで、教育長 小竹篤氏、令和4年12月24日付けで、教育委員 中村和久氏が再任されました。その他、令和4年度中の教育委員の交代はありませんでした。

【教育委員会名簿】

令和3年10月1日～

	氏名	任期	備考
教育長	小竹 篤	令和元年10月1日～令和4年9月30日	
委員	中島 幸代	令和3年10月1日～令和7年9月30日	
委員	浅尾 美沙	令和2年10月1日～令和6年9月30日	
委員	奥村 楠治	令和元年10月1日～令和5年9月30日	
委員	中村 和久	平成30年12月24日～令和4年12月23日	教育長職務代理者

令和4年10月1日～

	氏名	任期	備考
教育長	小竹 篤	令和4年10月1日～令和6年9月30日	
委員	中島 幸代	令和3年10月1日～令和7年9月30日	
委員	浅尾 美沙	令和2年10月1日～令和6年9月30日	
委員	奥村 楠治	令和元年10月1日～令和5年9月30日	
委員	中村 和久	平成30年12月24日～令和4年12月23日	教育長職務代理者

令和4年12月24日～

	氏名	任期	備考
教育長	小竹 篤	令和4年10月1日～令和6年9月30日	
委員	中島 幸代	令和3年10月1日～令和7年9月30日	
委員	浅尾 美沙	令和2年10月1日～令和6年9月30日	
委員	奥村 楠治	令和元年10月1日～令和5年9月30日	
委員	中村 和久	令和4年12月24日～令和8年12月23日	教育長職務代理者

【教育委員会制度の概要】

- 教育委員会は、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置。首長から独立した行政委員会としての位置づけ。
- 教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体の事務を執行。

2. 教育委員会の会議

鳥羽市教育委員会会議規則の規定に基づき定例会を開催しています。

令和4年度は12回（定例会12回・臨時会1回）を開催し、合計42議案を審議、可決・承認しました。

会議日程は、市の告示板に掲出しています。

【開催状況】（開催回数：定例会12回・臨時会1回、審議等議案数：42件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定例会 (議案)	1 (11)	1 (6)	1 (1)	1 (3)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (4)	1 (3)	1 (10)	12回 (42件)
臨時会 (議案)							1 (0)						1回 (0件)

【主な内容】

期日	議案等	主な協議件名
4月定例会 (R4.4.27)	議案 (11件)	鳥羽市中心身障害児就学指導委員会委員の解委嘱について
		鳥羽市学校評議員の委嘱について
		鳥羽小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		答志小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		神島小・中学校学校運営協議会委員の委嘱について
		菅島小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		加茂小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		安楽島小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		弘道小学校学校運営協議会委員の委嘱について
		鳥羽市学校跡運動施設の目的外使用許可の取扱いに関する要綱の制定について
鳥羽市学校体育施設開放運営委員会委員及び管理指導員の委嘱について		
5月定例会 (R4.5.26)	議案 (6件)	独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金の徴収に関する規則の制定について
		鳥羽市いじめ問題対策連絡協議会委員の任命について
		鳥羽市青少年サポートセンター指導員の委嘱について
		鳥羽市立中央公民館館長・主事及び分館主事の解任命について
		鳥羽市放課後子ども総合プラン運営委員の委嘱について
鳥羽市立海の博物館運営協議会委員の委嘱について		
6月定例会 (R4.6.28)	議案 (1件)	鳥羽市スポーツ推進審議会委員の解委嘱について

7月定例会 (R4.7.29)	議案 (3件)	鳥羽市部活動検討委員会設置要綱の制定について
		鳥羽市運動施設の設置及び管理に関する条例の一部改正についての意見の申出について
		鳥羽市立海の博物館運営協議会委員の委嘱について
8月定例会 (R4.8.24)	議案 (1件)	鳥羽市部活動検討委員会委員の委嘱について
10月定例会 (R4.10.26)	議案 (1件)	鳥羽市スポーツ推進委員の解嘱について
11月定例会 (R4.11.21)	議案 (1件)	令和5年度教職員人事異動基本方針(案)について
12月定例会 (R4.12.23)	議案 (1件)	令和5年度土曜日の授業の実施(案)について
1月定例会 (R5.1.23)	議案 (4件)	指定管理者の指定についての意見の申出について(海の博物館)
		指定管理者の指定についての意見の申出について(大庄屋かどや)
		鳥羽市高等学校通学費等補助金交付要綱の一部改正について
		令和4年度(令和3年度実績)鳥羽市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について
2月定例会 (R5.2.21)	議案 (3件)	鳥羽市社会教育委員及び公民館運営審議会委員の解嘱について
		鳥羽市スポーツ推進委員の解嘱について
		令和5年度教職員人事異動(案)について
3月定例会 (R5.3.22)	議案 (10件)	鳥羽市学校内科医の委嘱について
		鳥羽市学校眼科医の委嘱について
		鳥羽市学校耳鼻科医の委嘱について
		鳥羽市学校歯科医の委嘱について
		鳥羽市学校薬剤師の委嘱について
		鳥羽市社会教育指導員の任命について
		地域学校協働活動推進員の委嘱について
		鳥羽市スポーツ推進委員の委嘱について
		鳥羽市スポーツ関係団体等に対する補助金交付要綱の一部改正について
		地域スポーツ指導者育成事業補助金交付要綱の制定について

【議案の種別】

【議決の状況】（付議事項数：48件）	件数
① 教育に関する事務の管理及び執行の基本方針	3件
② 教育委員会規則、規程等の制定・改廃	6件
③ 学校及びその他教育機関の設置及び廃止	0件
④ 協議会・審議会委員等の任免・委嘱	29件
⑤ 教育委員会事務の点検・評価	1件
⑥ 議会提出議案に関する意見	3件
⑦ 教科用図書採択	0件
⑧ 通学区域の設定・変更	0件
⑨ 文化財の市指定	0件
⑩ その他	0件

※ 上記議案のほか、教育ビジョンに基づく教育施策や、児童生徒の状況、学校の運営や行事、学校統合計画に関わる協議などを行いました。

※ 各会議の会議録については、市ホームページ上で公開しています。

3. 活動の周知及び情報発信

ホームページや広報とば、行政放送、とばメール等、様々な手段や方法により情報発信を行いました。

(1) 鳥羽市ホームページのトップページにおいて、告知を行いました。

掲載月	所管課	内 容
R4.4	学校教育課	鳥羽市海洋教育カリキュラムについて
R4.4	学校教育課	就学援助制度について
R4.5	生涯学習課	地球塾第20期生の募集について
R4.5	学校教育課	新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について
R4.5	学校教育課	鳥羽市外国語指導助手業務委託 事業者事業者選定プロポーザルの実施について
R4.8	学校教育課	鳥羽市学校給食中央共同調理場 調理等業務委託 事業者選定プロポーザルの実施について
R4.9	生涯学習課	生涯学習特別講座インスタグラマーから学ぼう！映えるエモい写真ワークショップ開催について
R4.10	総務課	幼稚園の入園募集について
R4.10	総務課	鳥羽市総合型校務支援システム導入事業者選定プロポーザルの実施について

R4.10	学校教育課	令和4年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について
R4.10	生涯学習課	菅島灯台の国の重要文化財指定について 山田優杯 鳥羽・エペフェンシング大会
R4.11	学校教育課	三重県鳥羽市答志島「寝屋子の島留学事業」について
R4.11	生涯学習課	鳥羽市20歳（ハタチ）の会（成人式）
R4.11	生涯学習課	こどもわかもの育成支援のための支部研修会（講演会）
R5.1	総務課	令和4年度高等学校通学費等補助金交付制度について
R5.1	生涯学習課	生涯学習特別講座 スマホ教室
R5.1	生涯学習課	鳥羽市20歳（ハタチ）の会（成人式）
R5.3	学校教育課	令和5年度鳥羽市立小中学校土曜日の授業実施予定

（2）「広報とば」による情報発信を行いました。

掲載月	担当課	内容・件数
4月1日号	生涯学習課	・お知らせ 1件
	学校教育課	・お知らせ 1件
5月1日号	生涯学習課	・コラム なるほど！うみはく ・お知らせ 1件 ・募集 1件
	総務課	・お知らせ 1件
	学校教育	・同級生とつながるよろこび
6月1日号	生涯学習課	・菅島灯台が国の重要文化財に指定 ・「地球塾」塾生募集
	総務課	・お知らせ 1件
	学校教育課	・お知らせ 1件
7月1日号	生涯学習課	・募集 3件
8月1日号	生涯学習課	・海辺の自然体験 ・海の中の妖しい世界へようこそ ・募集 1件
	学校教育課	・募集 1件
9月1日号	生涯学習課	・コラム なるほど！うみはく ・お知らせ 1件
	学校教育課	・魚を食べよう Vol.9旬の魚を味わおう 第2回アジ

10月1日号	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・第64回鳥羽市民体育大会参加者募集 ・お知らせ 2件 ・募 集 1件
	総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度幼稚園児・預かり保育園児募集 ・お知らせ 2件
11月1日号	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・お知らせ 3件
12月1日号	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・お知らせ 1件
	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・お知らせ 3件
1月1日号	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・第26回「海の香りのする詩」 ・コラム なるほど！うみはく ・令和4年度鳥羽市スポーツ優秀選手・優秀団体・体育功労者表彰 ・お知らせ 2件
	総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・お知らせ 1件
	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・魚を食べようVol.11～日本一 魚をおいしく食べるまち鳥羽～鳥羽が好き！ふるさと給食 ・お知らせ 1件 ・募 集 1件
2月1日号	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・出張スマートフォン教室を開催します ・第16回美し国三重市町対抗駅伝 ・お知らせ 1件
	総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・お知らせ 1件
	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・お知らせ 1件 ・募 集 1件
3月1日号	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・募 集 1件
連 載	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だより ・人権文化の花を咲かせよう

(3) 「行政放送」による情報発信を行いました。

放送日		所管課	タイトル
5月1日 ～5月31日	お知らせ	総務課	令和4年度高校生通学費等補助金制度について
1月11日 ～2月18日	お知らせ	総務課	令和4年度高校生通学費等補助制度のご案内について

(4) 「とばメール」やフェイスブックなどを活用し、各種事業のお知らせ、啓発活動を行いました。

4. 教育委員の自己研鑽

研修会への参加などで教育行政への理解を深めるとともに、積極的に各学校の現場へ出向き、子どもたちとのふれあいや学校の現状把握を行うなど、委員活動の充実に努めました。

また、関係機関と連携した活動や定期的な勉強会の開催など、委員間の意見交換や情報共有を通じて、自己研鑽に努めました。

開催日	内 容	場 所
R4. 7. 15	三重県市町教育委員会連絡協議会	オンライン
R4. 10. 10	南勢地区教育長会議	県伊勢庁舎
R4. 10. 28	三重の教育談義	オンライン
R4. 11. 21	市長・教育長・教育委員とPTAの語る会	鳥羽商工会議所かもめホール
R4. 12. 26	三重県市町教育委員会連絡協議会	オンライン
R5. 3. 22	第1回鳥羽市総合教育会議	鳥羽市役所
年間	・学校訪問等 20件 ・勉強会 12件	各市内学校等 教委会議室等

5. 教育委員会だより

教育委員会の機関紙である「教育委員会だより」を年に2回発行し、教育委員会に関する活動の情報発信を行いました。

【発行状況】発行回数：2回（10月・4月）

発刊月	内 容
9月 (第24号)	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥羽東中学校フェンシング部始動！ ・部活動の環境づくり～休日部活動の地域移行について～ ・鳥羽東中学校フェンシング部顧問と教育長の対談 ・海洋教育の推進～4拠点との連携～ ・遊びをとおして、豊かな学びと成長を（かもめ幼稚園）
4月 (第25号)	<ul style="list-style-type: none"> ・より安心な通園バスへ（かもめ幼稚園） ・令和5年度教育予算の概要 ・CSディレクターの活動を振り返って（安楽島小学校） ・英語教育の推進 ・鳥羽っ子学習（鳥羽小学校） ・2022年度山田優杯 鳥羽・エペフェンシング大会

6. 情報公開について

教育委員会が管理・執行する事務に係る情報公開請求の実績は、下記のとおりでした。

- ・ 行政情報の公開状況

件数	全部公開	部分公開	不受理
12	12	0	—

- ・ 個人情報の公開状況
公開請求無し。

7. 総合教育会議について

総合教育会議は、市長と教育委員会の対等な執行機関同士が協議・調整を行う場として、平成27度から開催されています。

令和4年度は3月22日に開催され、市長と教育委員が「支援を必要とする児童・生徒の現状」や、鳥羽市における新たな子育て支援策等について意見交換を行いました。

【自己評価と今後の取組】

- ・ ホームページや広報とば、行政放送、教育委員会だよりなどの媒体を活用し、教育委員会の取り組み等の情報発信に努めました。今後も教育委員会や学校の活動等について、積極的な情報発信を行っていきます。
- ・ 総合教育会議における市長と教育委員会との意見交換により、これからの子育て支援策や教育課題について情報共有を図ることができました。今後も、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、教育課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図っていきます。

8. 教育委員会の運営に対する外部評価

教育委員会の運営状況等に関する外部委員からの意見等は、下記のとおりでした。

【委員からの意見等】

<委員 A>

- 教育委員会の構成、会議、活動の周知・情報発信等、いずれも概ね適切に運営されている。とりわけ、ホームページで公開されている教育委員会会議録からは、地域教育の諸課題について、活発に議論や意見交換が行われている様子を窺うことができる。

<委員 B>

- 例年をベースとしながら適切に実施されている。「ホームページ」「広報とば」の連載を通じて、身近な企画を提案し、広く市民への啓発活動が積極的になされている。
- 教育委員の自己研鑽として、学校訪問を例年のように実施したことで、現場に出向いたからこそその教育課題との向き合いもあったと思われる。感じたことを積極的に教育委員会会議での議事、議案に反映されることを期待したい。
- 「教育委員会だより」で、新しく誕生したフェンシング部のことや、まだ広く知られていないCSディレクターのことを取り上げられたことは、タイムリーな啓発の観点から評価できる。

Ⅱ 「第2次鳥羽市教育ビジョン」の取り組み

多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成

【計画の体系】

【施策1】 しっかり学ぶ子どもを育てる

- (1) 基礎学力と情報活用能力を育成する教育
- (2) 英語教育を通してコミュニケーション能力を育てる教育

【施策2】 子どもの未来の礎となる鳥羽ならではの教育の推進

- (1) 自尊感情と郷土愛を育む教育
- (2) 環境問題や農水産業を柱とした海洋教育

【施策3】 多様な個性を認め合う豊かな心と健やかな体を育てる

- (1) 多様性やグローバル化へ対応した教育
- (2) 個に応じた支援を通して誰一人取り残さない教育
- (3) 健康や体力の向上に視点をあてた教育

【施策4】 地域・家庭とともにある園・学校づくり

- (1) 地域とともに歩む園・学校の教育
- (2) 家庭・地域と連携した幼児教育
- (3) 安全・安心・快適な教育環境の整備

【施策5】 生涯学習やスポーツの推進

- (1) 社会教育施設の充実と活用
- (2) 感性を育むアートに親しむ創作機会や環境の創出
- (3) 人財や文化財を活用した生涯学習
- (4) 生きがいと活力を育む生涯スポーツの推進

【施策1】 しっかり学ぶ子どもを育てる

(1) 基礎学力と情報活用能力を育成する教育

- ① 確かな学力と意欲を定着させる
- ② 学校・園・家庭・地域の連携
- ③ 新しい学習課題への取組
- ④ 誰一人取り残さない学びの保障

【主な取組と成果】

① 確かな学力と意欲を定着させる

教育振興事業

(旧 学力向上推進事業)

令和4年度決算額	2,927 千円	(前年度決算額)	24 千円
----------	----------	----------	-------

児童生徒の学力向上を図るため、全国学力・学習状況調査などの結果を基に学力向上委員会で指導方法を協議し、授業の改善に努めました。

へき地教育振興事業

令和4年度決算額	136 千円	(前年度決算額)	163 千円
----------	--------	----------	--------

へき地複式教育に関わる団体への補助を行い、へき地複式校における教育環境の整備支援を行いました。

教育支援事業

(旧 児童生徒支援事業)

令和4年度決算額	3,032 千円	(前年度決算額)	1,820 千円
----------	----------	----------	----------

小学校教育振興事業

(旧 理科教育振興事業〈小〉)

令和4年度決算額	6,042 千円	(前年度決算額)	209 千円
----------	----------	----------	--------

中学校教育振興事業

(旧 理科教育振興事業〈中〉)

令和4年度決算額	5,993 千円	(前年度決算額)	128 千円
----------	----------	----------	--------

各小中学校に必要な各種教材備品、学校図書備品を整備するとともに、GIGA スクール構想に伴う ICT 教育におけるサポート環境を整備しました。

また、市内の小中学校が一堂に会し、活動の成果を発表する学校音楽祭の開催や修学旅行等の校外学習における各種補助を行い、学習環境の充実を図りました。

② 学校・園・家庭・地域の連携

教育振興事業

(旧 教育振興管理事業)

令和4年度決算額	2,927 千円	(前年度決算額)	10,710 千円
----------	----------	----------	-----------

「地域とともにある学校づくり」の推進を図るため、小学校にコミュニティ・スクール(学校運営協議会)を設置し、保護者や地域の方々が協働して、教育活動や学校運営ができる仕組みづくりを行いました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査の正答率	全国平均と ほぼ同じ	全国平均より 小学校 △ 2.3ポイント 中学校 △ 1.9ポイント	全国平均を3ポイント 以上上回る
授業の内容は「よくわかる」の回答率	小学校 36.7% 中学校 34.3%	小学校 40.1% 中学校 37.0%	小学校 60% 中学校 60%

○学校別児童・生徒数（令和4年5月1日現在）

<小学校>

学校名	区分 児童数（人）	学級数		
		普通	特別支援	計
鳥羽	172 (16)	6	4	10
答志	42 (1)	4	1	5
神島	9 (0)	3	0	3
菅島	16 (1)	2	1	3
加茂	111 (7)	6	2	8
安楽島	233 (7)	9	2	11
弘道	44 (3)	5	1	6
計	627 (35)	35	11	46

(注) () 内の数は、特別支援学級児童数（内数）、学級数は実学級数

<中学校>

学校名	区分 生徒数（人）	学級数		
		普通	特別支援	計
鳥羽東	261 (4)	9	1	10
答志	23 (0)	3	0	3
神島	7 (1)	3	1	4
加茂	56 (1)	3	1	4
計	347 (6)	18	3	21

(注) () 内の数は、特別支援学級児童数（内数）、学級数は実学級数

<幼稚園>

区分 幼稚園名	園児数 (人)				学級数
	3歳児	4歳児	5歳児	計	
かもめ	12	4	8	24	3

○学校別教職員数 (令和4年5月1日現在)

<小学校>

(単位：人)

区分 学校名	校長	教頭	教諭	養護 教諭	栄養 教諭	事務 職員	計
鳥羽	1	1	13	1	0	1	17
答志	1	1	5	1	1	1	10
神島	0	1	3	1	0	1	6
菅島	1	1	3	1	1	1	8
加茂	1	1	9	1	0	1	13
安楽島	1	1	14	1	0	1	18
弘道	1	1	7	1	0	1	11
計	6	7	54	7	2	7	83

<中学校>

(単位：人)

区分 学校名	校長	教頭	教諭	養護 教諭	栄養 教諭	事務 職員	計
鳥羽東	1	1	20	1	1	1	25
答志	1	1	6	1	0	1	10
神島	1	1	7	0	0	0	9
加茂	1	1	8	1	0	1	12
計	4	4	41	3	1	3	56

<幼稚園>

(単位：人)

区分 幼稚園名	園長	教諭	計
かもめ	1	5	6

③ 新しい学習課題への取組

④ 誰一人取り残さない学びの保障

小学校教育振興事業 (旧 小学校教育振興事業)	令和4年度決算額	6,042 千円	(前年度決算額)	7,213 千円
中学校教育振興事業 (旧 中学校教育振興事業)	令和4年度決算額	5,993 千円	(前年度決算額)	5,073 千円
小学校 ICT 教育推進事業 (旧高度情報通信システム利用教育事業)	令和4年度決算額	4,256 千円	(前年度決算額)	3,577 千円
中学校 ICT 教育推進事業 (旧 コンピュータ教育事業)	令和4年度決算額	2,971 千円	(前年度決算額)	2,252 千円
教職員研修事業 (小学校)	令和4年度決算額	70 千円	(前年度決算額)	422 千円
教職員研修事業 (中学校)	令和4年度決算額	240 千円	(前年度決算額)	302 千円

各小・中学校に必要な各種教材備品の購入をはじめ、公立学校情報機器整備費補助金を活用し、GIGA スクール構想に伴う児童・生徒に1台ずつタブレット端末を購入したほか、関連する ICT 機器の購入や通信ネットワーク環境の整備、タブレット端末管理に係るサポート業務の契約など、ICT 教育環境の整備を図りました。

[教職員研修事業]

鳥羽志摩教育研究会や市教育研究推進校への補助を通して、教職員の資質の向上を図りました。

また、各校からの授業研究に係る指導主事への派遣要請を受け要請訪問を実施し、授業に対しての指導及び助言を行いました。

- 令和4年度鳥羽市教育研究推進校 : 鳥羽東中学校
- 研究主題 : 『多様な社会を生き抜くための、資質・能力の育成』
- 令和4年度 指導主事 要請訪問回数 : 26回 (小学校7校延べ数)
18回 (中学校4校延べ数)

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
各学級のICT活用授業時間数	1時間/1日	3時間以上/1日	3時間以上/1日

【自己評価と今後の取組】

成果指標としている全国学力・学習状況調査の児童生徒アンケートと鳥羽市独自のアンケート調査結果を実績値として活用したことにより、計画目標値と比較しました。言語活動については、学級の友だちとの間で話し合う活動を「よく行っている・行っている」と肯定的に回答している小学生が86.4%、中学生が81.6%であるので、今後さらに活動の充実を目指すこととします。

めあて・ねらいについては、「めあて」について「よく行った」は小学校は98.4%、中学校は99.0%、「振り返る活動」については小学校は88.9%、中学校は96.2%となっています。かなり高い数値となっており、小中学校とも定着してきました。これは、指導主事要請訪問時の教員への指導・助言の成果であると考えています。来年度は適用問題を取り入れ、児童生徒の学力の定着について指導・助言を行いたいと考えています。

「授業内容がよく分かりますか」については、「よくあてはまる」という回答は、小学校で40.1%、中学校で37.0%となっており、目標数値とは開きがありますが、「あてはまる」を含めた肯定的な回答は80.0%以上となっています。今後は、より分かりやすい授業を充実させていくために、児童生徒が興味・関心を持つ課題を設定し、積極的に参加できるように、学力向上委員会等をとおして、授業改善に努めます。

授業や家庭学習におけるタブレット端末の仕様が日常化しました。全国学力・学習状況調査の児童生徒アンケートからも、児童生徒のタブレット端末の使用頻度が高いことがわかります。また、保護者の要望もあり、欠席者や不登校児童生徒のために、授業のライブ配信や録画配信を行う学校が出てきました。今後も、すべての学校において保護者や児童生徒の要望に応じたICT教育の取り組みを推進していきます。

学習ボランティアについては、「三重県教育委員会事務局の大学生等の教育アシスタント活用事業」を活用しました。コロナ前のように人数は集まりませんでしたが、大学生が子どもたちに丁寧に教える姿がありました。今後も、鳥羽市独自の学習サポーターや学習ボランティアの配置を目指し、授業等でのきめ細かな指導に努め、児童生徒一人ひとりの学力向上を図っていきます。

成果指標に対して計画目標値を達成することはできませんでしたが、今後も『確かな学力』（「基礎的な知識・技能」「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力」「学習に取り組む意欲」）の向上をめざし、指導方法や学力向上のための取組の結果を検証・評価し、指導方法及び取組の改善を図ります。今、社会においては、問題を解決する力、困難を乗り越える力、コミュニケーション力といった、変化の激しい時代を生き抜くための力が求められています。このため、「基礎的・基本的な知識・技能」に加え、それらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力等」、さらには「主体的に学習に取り組む態度(学びに向かう力)」を学力の重要な3要素ととらえ、その育成を図ります。特に「何を理解しているか、何ができるか」「理解していること・

できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の視点から必要な資質・能力を身につけられるよう、「どのように学ぶか」を重視した授業実践を心がけます。

【委員からの意見等】

＜委員 A＞

■基礎学力の向上や情報活用能力の育成に向けた取り組みは、概ね適切に取り組まれている。特に、「授業の内容は『よくわかる』の回答率」が、令和元年度と比較して向上している。令和7年度目標値の達成に向けて、引き続き取り組みを進めていただきたい。

＜委員 B＞

■全国学力・学習状況調査のアンケートで、「めあて」「振り返り活動」の数値が小・中ともに上昇したことは、鳥羽市の小中学校あげての一体的な意識改革ができてきたということで評価できる。ただ、教育委員会の自己評価にもあるように、学力の定着という観点である「正答率」については、令和7年度の数値目標とはまだ開きがあり、指導主事を中心とした、一層の効果的な指導・助言に期待したい。

■複式学級授業の先進自治体として、その取り組みは他の市町、学校の貴重かつ価値ある実践であります。また複式学校の研修会をスタートしたことで、より一層、子ども達へのフィードバックを期待したい。

■昨年度大幅にダウンした、友だちとの間での話し合う活動の「よく行っている・行っている」との回答が、今年度小学校で約14ポイント、中学校で約6ポイント上昇したことは、教師、子ども達もその活用スキルを身に付け、タブレットによる学習が定着してきたことも一因である。それは、各学校への指導主事の助言、指導とも大きく関係が有るだろう。このことを一過性のものにするのではなく、来年度も引き続き教育委員会としての役割を継続して頂きたい。

(2) 英語教育を通してコミュニケーション能力を育てる教育

- ① 新しい学習課題への取組
- ② 英語を用いたコミュニケーション活動の推進
- ③ 小中で一貫した英語教育のための研修の実施
- ④ 鳥羽ならではの授業スタイルの構築

【主な取組と成果】

① 新しい学習課題への取組

外国語教育推進事業

(旧 英語検定チャレンジ事業)

令和4年度決算額	12,403千円	(前年度決算額)	991千円
----------	----------	----------	-------

児童・生徒の英語への興味、関心を引き出し、積極的に英語でコミュニケーションを図る力を育むため、小・中学校にて、公費による英検 Jr と英検に挑戦しました。

- 英検 Jr 小学校 6 年生 115 人
- 英検 中学校 1 年生 97 人 中学校 2 年生 90 人 中学校 3 年生 63 人

② 英語を用いたコミュニケーション活動の推進

外国語教育推進事業

(旧 外国人英語指導業務委託事業)

令和 4 年度決算額	12,403 千円	(前年度決算額)	13,238 千円
------------	-----------	----------	-----------

幼稚園及び小・中学校に ALT (外国人英語指導助手) 3 人を派遣し、外国語指導の補助や子どもたちとの触れ合いを通して、園児や児童・生徒のコミュニケーション能力の向上と国際感覚の育成を図りました。

また、菅島小、答志小、神島小の児童 4 年生から 6 年生を対象に、英会話で一日を過ごす「イングリッシュデイ」を鳥羽ロータリークラブと共催しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 4 年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
中学 3 年生の英検 3 級以上合格率	37.1 %	47.9 %	60.0 %

③ 小中で一貫した英語教育のための研修の実施

④ 鳥羽ならではの授業スタイルの構築

【自己評価と今後の取組み】

- ・令和 3 年度から ALT (外国人英語指導助手) を 3 人配置することで、英語と触れ合う時間が増えました。
- ・児童、生徒の学習到達度に応じた「個別最適」の学びを実現するために、英語科では、AI 機能付き学習端末 (学習アプリ) を導入し、朝の学習時間や、家庭学習を使用した短時間で効率の良い学習ができ、児童、生徒の学習の進捗状況が一目でわかるなど、良い効果がありました。今後は、日常の学習に関連させ、児童生徒が自主的に学習できるよう取り組みを進めるとともに、より効果が発揮できるように研修を進めます。

【委員からの意見等】

＜委員 A＞

■英語教育を通してコミュニケーション能力を育てる教育について、適切に展開されている。令和3年度より3名のALTを配置したことも成果に貢献していると思われる。

＜委員 B＞

■厳しい財政事情の中、昨年度に外国人英語指導助手を3人体制とした。すぐに成果として現れないかもしれないが、園児、児童、生徒の英語コミュニケーション能力の育成に必ず役立つと思われる。鳥羽市教育委員会の英語教育への積極性を感じている。

【施策2】子どもの未来の礎となる鳥羽ならではの教育の推進

(1) 自尊感情と郷土愛を育む教育

- ① 「人権感覚あふれる学校づくり」の推進と人権教育・学習の充実
- ② 系統性を持った人権教育の取組
- ③ 地域の魅力を伝える教育
- ④ 郷土の良さを紹介できる子どもの育成
- ⑤ 地域の環境や人材を活かした体験活動の推進
- ⑥ 食材を通して地域の良さを再確認し郷土愛を育む食育

【主な取組と成果】

- ① 「人権感覚あふれる学校づくり」の推進と人権教育・学習の充実
- ② 系統性を持った人権教育の取組

教育振興事業

(旧 学校人権教育事業)

令和4年度決算額	2,927 千円	(前年度決算額)	102 千円
----------	----------	----------	--------

鳥羽市人権フォーラム担当者を中心に、各小・中学校における人権教育を推進するため「鳥羽市人権フォーラム」を開催しました。

人権フォーラムでは、児童・生徒による取組みについて、発表や意見交換を行うことで、人権問題を再認識し、感性を高めることができました。

○ 人権フォーラム参加児童・生徒人数 小学生 21 人 (7 校) 中学生 16 人 (4 校)

- ③ 地域の魅力を伝える教育
- ④ 郷土の良さを紹介できる子どもの育成
- ⑤ 地域の環境や人材を活かした体験活動の推進

人材育成講座「地球塾」事業	令和4年度決算額	348千円	(前年度決算額)	17千円
---------------	----------	-------	----------	------

地球塾事業は20期目を迎え「博物館で学ぶ」をテーマに4回の講座を実施しました。

市内小学4年生から6年生までを対象に実施している「とばっこ検定」については、4・6年生の検定はオンライン形式で、5年生は引き続き、海の博物館でウォークラリー形式で行いました。

⑥ 食材を通して地域の良さを再確認し郷土愛を育む食育

学校給食運営事業	令和4年度決算額	31,189千円	(前年度決算額)	29,563千円
----------	----------	----------	----------	----------

学校給食運営事業（中央調理場）	令和4年度決算額	65,861千円	(前年度決算額)	59,970千円
-----------------	----------	----------	----------	----------

学校給食法に基づき、児童・生徒の心身の健全な発達を目的として、栄養バランスのとれた学校給食を提供し、食生活全般を通じた食育の推進を図りました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
とばっこ検定合格率	100 %	100 %	100 %
鳥羽市の食材（農水産物等）使用率	27.5 %	10.8%	30.0 %

【自己評価と今後の取組み】

- ・小・中学校人権フォーラムを開催し、児童生徒が自分の思いを伝え、友だちの思いを聞き、考えを深める取り組みを進めました。
- ・島っ子ガイドをはじめ、各小中学校において地域を学び、発信する取り組みを進めています。今後は、全ての小学校にコミュニティ・スクールディレクターを配置し、ゲストティーチャーやボランティアにかかる人材バンクの作成、児童生徒の見守り活動、避難所運営訓練の実施など、地域と学校が連携した取り組みを進めていきます。
- ・地元食材を活用した「鳥羽が好きふるさと給食」で、自然の豊かさと生産者の思いを学ぶ食育の授業を行いました。今後も食材を通して地域の良さを再認識し、郷土愛を育む

食育を進めます。

- ・とばっこ検定は、3学年で実施を始めて3年目を迎えました。今年度もオンライン形式を一部導入し、円滑に実施することができていると感じています。

【委員からの意見等】

＜委員A＞

■鳥羽の教育資源を活かした教育が展開されており、郷土愛を育む教育が実現できていると評価することができる。ただし、学校給食での地元食材の使用率は低いまま推移している。食材費の高騰等、考慮すべき要因があると推察されるが、善処すべき点である。

＜委員B＞

■コミュニティ・スクールディレクターが配置された学校では、各学校の状況に応じて、それぞれが地域を熟知しているが故の見守り活動や、避難所運営訓練の実施では県からの表彰等に繋がったことは意義深いものである。今後はそのまかれた種が、学校運営協議会構成委員でさらに伸び行くことを期待するとともに、小中合同という新しい形にも昇華され、教員だけでは気づけなかった地域人材の発掘を一層進めてもらうことで、小中連携、系統した子どもたちの郷土愛の育みにつながればと思います。

(2) 環境問題や農水産業を柱とした海洋教育

① 海洋教育の推進

【主な取組と成果】

海洋教育推進事業	令和4年度決算額	467千円	(前年度決算額)	68千円
----------	----------	-------	----------	------

海に関する校外学習や郷土学習について海洋教育のカリキュラム化を行い、小中学校に周知しました。鳥羽市内の海に関する学習拠点や研究拠点、生産拠点を活用した学びを進めていくため、関係機関への訪問や海環境体験、学芸員を招いての出前事業等を実施し、海洋教育の推進を図りました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
海洋教育（郷土教育）のカリキュラム化	小学校4～6年 100%	小学校4～6年 100%	幼小中全学年 100%

【自己評価と今後の取組み】

- ・市内外の有識者や海に関する関係機関と海洋教育推進委員会を組織し、各関係機関が作成したカリキュラムをもとに市内小中学において学びを進めました。カリキュラムについては、今後も実践を積み重ねながら、より良いものへと改良していきます。
- ・持続可能な海洋教育の推進を図るため、市内にある海に関する学習拠点や研究拠点、生産拠点を活用した学びを進めます。
- ・パラオ共和国の中学生と英語によるオンライン交流授業が行えるよう調整を進めていきます。

【委員からの意見等】

<委員A>

- 海洋教育については、カリキュラム開発、教育実践ともに積極的に推進されており、適切に展開されている。鳥羽市独自の教育実践として今後の取組みも高く期待することができる。

<委員B>

- カリキュラムを作りっぱなしではなく、より現場のニーズに合致した改善、改良を加えていくことは大切なことであるので、今後もぜひ継続してもらいたい。
- 海洋教育として、市の全学校が独自の海に関する学びに取り組むことは、将来も鳥羽市に住み続けたい子ども達のモチベーションにつながるものとして評価できます。

【施策3】多様な個性を認め合う豊かな心と健やかな体を育てる

(1) 多様性やグローバル化へ対応した教育

- ① 人権教育・学習の充実
- ② 道徳教育の推進
- ③ 多文化共生教育の推進
- ④ 安全安心でおいしい給食の提供

【主な取組と成果】

- ① 人権教育・学習の充実
- ② 道徳教育の推進

教育振興事業

(旧 学校人権教育事業)

令和4年度決算額	2,927千円	(前年度決算額)	102千円
----------	---------	----------	-------

鳥羽市人権フォーラム担当者を中心に、各小・中学校における人権教育の推進を行い、鳥羽市人権フォーラムを開催しました。

人権教育推進事業

令和4年度決算額	2,532千円	(前年度決算額)	2,246千円
----------	---------	----------	---------

園児、児童、生徒、保護者を対象とした子育てに関すること、障がい者の人権に関すること、身近にある偏見や決めつけに関すること、性の多様性に関することなど、現代社会における様々な人権課題について学ぶ機会を創出しました。

○ 講演会・学習会 開催回数 9回 参加者数 805人

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
全国学力・学習状況調査での「自分にはよいところがある」(自尊感情)と答えた割合(肯定的な回答の割合)	小学校 74.0% 中学校 70.9%	小学校 82.8% 中学校 84.4%	小学校 85.0% 中学校 80.0%

③ 多文化共生教育の推進

外国語教育推進事業

(旧 外国人英語指導業務委託事業)

令和4年度決算額	12,403千円	(前年度決算額)	13,238千円
----------	----------	----------	----------

かもめ幼稚園及び市内小・中学校にALT(外国人英語指導助手)3人を派遣し、外国語指導の補助や子どもたちとの触れ合いを通して、園児や児童・生徒のコミュニケーション能力の向上と国際感覚の育成を図りました。

④ 安全安心でおいしい給食の提供

学校給食運営事業

令和4年度決算額	31,189千円	(前年度決算額)	29,563千円
----------	----------	----------	----------

学校給食運営事業(中央調理場)

令和4年度決算額	65,861千円	(前年度決算額)	59,970千円
----------	----------	----------	----------

学校給食法に基づき、児童生徒の心身の健全な発達を目的とした栄養バランスのとれた学校給食を提供し、食育の推進を図りました。

【自己評価と今後の取組み】

- ・自己肯定感を高めることは、どの学校でも課題となっています。これまでも取り組んできましたが、子どもたち一人ひとりと教師が繋がり、教師が授業や学校生活を通じて児童・生徒同士をつなげていく取組を続けていきます。
- ・学校給食衛生管理基準に沿った学校給食を実施するため、給食調理場の設備を改修しました。
- ・地元でとれる新鮮な旬の食材を給食に活用することで「自然豊かな鳥羽」の再認識と郷土愛を育む「鳥羽が好きふるさと給食」を実施します。

【委員からの意見等】

<委員 A>

- 自尊感情を抱く児童・生徒の割合が高まりつつあるように、多様性や多文化共生を理念とする教育活動には一定の成果が得られていると評することができる。

<委員 B>

- 昨年度に比べて、全国学力・学習状況調査での「自尊感情」の項目が、小中共に大幅に数値が上がり、目標値に近いものになったことは良い事である。母数もそう多くないことから、この結果に一喜一憂することなく、自己肯定感を高める取組を有機的に関連付けてさらに取り組まれ、常態となるようにしてもらいたい。

(2) 個に応じた支援を通して誰一人取り残さない教育

- ① 特別支援教育の充実
- ② 不応・不登校児童生徒への支援の推進
- ③ 学びのセーフティネットの構築

【主な取組と成果】

① 特別支援教育の充実

教育支援事業

(旧 特別支援教育体制整備事業)

令和4年度決算額	3,032 千円	(前年度決算額)	15 千円
----------	----------	----------	-------

障がいのある児童・生徒の特別支援教育を総合的に推進するため、専門的知識や経験を有する巡回相談員を派遣しました。

特別支援教育就学対策事業 (小)

令和4年度決算額	846 千円	(前年度決算額)	652 千円
----------	--------	----------	--------

特別支援教育就学対策事業（中）	令和4年度決算額	185千円	（前年度決算額）	109千円
-----------------	----------	-------	----------	-------

心身に障がいのある児童の適切な就学を図るため、関係機関との連携及び特別支援学級、通級指導教室設置校の機能の充実を図りました。

教育支援事業 （旧 心身障がい児就学指導事業）	令和4年度決算額	3,032千円	（前年度決算額）	0千円
----------------------------	----------	---------	----------	-----

小・中学校に入学予定で、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の保護者に適切な就学指導をするため、心身障害児就学指導委員会（医師、教員、保育士など10人で構成）を年間10回開催しました。

② 不適応・不登校児童生徒への支援の推進

教育支援事業 （旧 教育支援センター事業）	令和4年度決算額	3,032千円	（前年度決算額）	991千円
--------------------------	----------	---------	----------	-------

様々な理由で不登校となるなど、学校生活に悩みをもつ児童・生徒の実態に即した指導や支援を行いました。

児童・生徒の自立支援を行うため、教育支援センター（HARP）に専任指導員（みえ発達障がい支援システムアドバイザー）1人と会計年度任用職員1人を配置し、通級してくる児童・生徒へ生活指導や学習支援などを行いました。

また、学校への定期的な訪問や、集団への不適応・不登校傾向にある児童・生徒に支援を行いました。

教育支援事業 （旧 児童生徒支援事業）	令和4年度決算額	3,032千円	（前年度決算額）	1,820千円
------------------------	----------	---------	----------	---------

子どもたちが、心にゆとりをもって、学校生活が送れるよう、気軽に悩みなどを相談できる「心の教室相談員」を学校と教育支援センターHARPに2名配置しました。

授業や休み時間など、様々な状況で子どもたちの様子を観察し、積極的に子どもたちと会話することで、心の安定に努めることができました。

○ 心の教室相談員配置校：鳥羽東中、加茂中、教育支援センターHARP

③ 学びのセーフティネットの構築

就学援助事業（小学校費）	令和4年度決算額	5,330千円	（前年度決算額）	5,927千円
--------------	----------	---------	----------	---------

就学援助事業（中学校費）	令和4年度決算額	7,158千円	（前年度決算額）	6,552千円
高校生修学支援事業	令和4年度決算額	3,489千円	（前年度決算額）	3,196千円

経済的理由により、就学することに支障をきたしている児童・生徒の保護者に対して、就学に係る必要な経費を扶助するなど、経済的援助を行いました。

また、地理的条件などで、遠距離通学をしている生徒の保護者に対しても、通学費を補助するなど、経済的負担の軽減を図りました。

子育て支援および教育における経済的負担の軽減を図ることを目的に、離島高校生への通学費及び下宿費の一部を補助しました。

成果指標名	令和元年度 （現状値）	令和4年度 （実績値）	令和7年度 （目標値）
特別な支援を必要とする通常学級在籍児童・生徒の個別指導計画作成の割合	62.9%	60.0%	100%

【自己評価と今後の取組み】

- ・特別な支援を必要とする子どもたちの自立と社会参画に必要となる力の育成に向け、一人ひとりの状況に応じた合理的配慮の提供及び学びを支援するため、子育て支援室など関係機関と連携した途切れのない支援を進めました。
- ・不適應、不登校傾向の児童生徒に対し教育支援センターHARPに専任指導員（みえ発達障がい支援システムアドバイザー）1人と会計年度任用職員1人を配置し、通級してくる児童・生徒へ生活指導や学習支援、保護者からの教育相談など行いました。
- ・経済的な理由により、就学に支障をきたすことのないよう必要な経費について扶助を行いました。
- ・今後も様々な理由により支援が必要な児童生徒に向けて、一人ひとりの状況に応じた合理的な配慮の提供と学びの支援を行います。

【委員からの意見等】

<委員 A>

■特別支援教育、不登校児童生徒への支援、経済的理由による就学困難児童生徒への支援のいずれも適切に実施されている。今後も個別のニーズを汲み上げ、誰一人取り残さない教育を継続していただきたい。

<委員 B>

■令和4年度、全国の小中学校では不登校が約30万人(小学校で約2.4万人、中学校で約3万人の増加)となり、個別の支援・対応を必要とする児童・生徒の割合が、年々増加している。この現状を鑑み、就学指導委員会や教育支援センター等の関係機関との情報共有、連携、支援を丁寧に遂行し、様々なニーズに対応できるよう、みえ発達障がい支援システムアドバイザー資格のある小中学校の現職教員を、行政へ出向配置することも検討していただきたい。そして様々な課題がある児童、生徒の実態に即して、よりきめ細かい指導、支援を執り行ってもらい、健やかな心身を持つ子どもの育成に結び付けてもらいたい。

(3) 健康や体力の向上に視点を当てた教育

- ① 豊かな心と健やかな体を育てる
- ② コーディネーショントレーニングの推進
- ③ 学校部活動の在り方についての検討

【主な取組と成果】

① 豊かな心と健やかな体を育てる

小学校教育振興事業
(旧 学校音楽祭事業〈小〉)

令和4年度決算額	6,042 千円	(前年度決算額)	0 千円
----------	----------	----------	------

中学校教育振興事業
(旧 学校音楽祭事業〈中〉)

令和4年度決算額	5,993 千円	(前年度決算額)	0 千円
----------	----------	----------	------

市内の小中学校が一堂に会し活動の成果を発表する学校音楽祭の開催や修学旅行等の校外学習における各種補助を行い、学習環境の充実を図りました。

学校図書館整備事業

令和4年度決算額	4,664 千円	(前年度決算額)	4,774 千円
----------	----------	----------	----------

小・中学校の学校図書館に司書を派遣し、児童・生徒が本と親しめるコーナーの設置やイベントを開催しました。また、図書担当教員への指導や助言、図書館を活用した授業を推進するなど、子どもたちの文章力や読解力の向上に努めました。

活力ある学校づくり推進事業（小学校費）	令和4年度決算額	1,364千円	（前年度決算額）	803千円
活力ある学校づくり推進事業（中学校費）	令和4年度決算額	1,096千円	（前年度決算額）	882千円

特色ある学校活動を実践することで、児童の活力を引き出す学校づくりを推進しました。各学校において、校外学習や地域に開かれた学校づくりの取り組みを行い、体験を通して学ぶ児童・生徒活動を推進しました。

○ 令和4年度各校の主な活動内容

<小学校>

- ・鳥羽小学校 地域と共にある学校づくり推進事業、読書活動充実事業など
- ・答志小学校 島っ子ガイド推進事業、海の子フェスタと防災集会事業など
- ・神島小学校 神島っ子ガイド事業、島っ子太鼓、子どもゲーター祭り事業など
- ・菅島小学校 島っ子ガイド推進事業、地域とともにある学校づくり推進事業など
- ・加茂小学校 地域産業体験学習（稲作体験学習、畑作体験学習）、体力向上の推進など
- ・安楽島小学校 地域体験学習（アサリの養殖体験等）、芸術鑑賞会、情報教育の推進など
- ・弘道小学校 地域ふるさと学習、CS推進事業、栽培環境整備など

<中学校>

- ・鳥羽東中学校 人権感覚育成事業、地域と学校をつなぐ教育活動推進事業など
- ・答志中学校 海洋教育推進事業、キャリア教育推進事業、文化活動推進事業など
- ・神島中学校 人権学習推進事業、地域交流事業、和楽器体験事業
- ・加茂中学校 キャリア教育推進事業、文化活動奨励事業、命の大切さを学ぶ教育推進事業など

② コーディネーショントレーニングの推進

生涯スポーツ振興事業	令和4年度決算額	5,479千円	(前年度決算額)	3,943千円
------------	----------	---------	----------	---------

加茂小学校でコーディネーショントレーニングのモデル事業を実施したほか、鳥羽市小学校体育研究会と連携し、講習会を実施しました。

※ コーディネーショントレーニング・・・脳と体幹に刺激を与えることで、運動の器用さを高めるとともに、その土台となる運動学習能力を養うトレーニング

項目	回数(回)	参加者延べ人数(人)
コーディネーショントレーニング	11回	教員 10人 1.2年生 32人 3.4年生 44人 5.6年生 37人

③ 学校部活動の在り方についての検討

中学校管理業務	令和4年度決算額	10,366千円	(前年度決算額)	11,382千円
---------	----------	----------	----------	----------

鳥羽東中学校に専門知識を有した部活動指導員を4名配置し、部活動の技術的な指導や大会への引率を行い、教職員の部活動以外に必要な生徒指導等の時間確保に努めました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
園児の図書年間貸出冊数(一人当たり)	65.0冊	70.0冊	70.0冊
児童の学校図書年間貸出冊数(一人当たり)	46.6冊	50.3冊	50.0冊
生徒の学校図書年間貸出冊数(一人当たり)	4.7冊	3.5冊	10.0冊
コーディネーショントレーニングに取り組む学校の割合	92.3%	90.9%	100.0%

【自己評価と今後の取組み】

- 鳥羽東中学校へ部活動指導員(フェンシング部・剣道部・女子バレー部・文化部)の配置を行い、教職員の時間外労働の縮減と生徒への専門的な指導を行いました。次年度以降も継続した取組みを行います。

【委員からの意見等】

<委員 A>

■ いずれの取り組みも概ね適切に実施されている。近年の国の政策動向を踏まえれば、部活動指導員の配置を拡大することが想定できるので、教育委員会においては、指導員の人員確保や効果検証に備えていただきたい。

<委員 B>

■ 豊かな心を育てる活動として、小中学校で企画、運営していた市音楽祭活動が実施できたことは、学校の音楽を通しての各アイデンティティ確立に役立つとともに、子どもたち一人ひとりの自尊感情を高める活動に結びつけられる良い方策の復活であったと思います。

■ 部活動指導員の導入は、子どもたちの専門的な活動を可能にする施策だと思うので、今後も可能な範囲で積極的に指導員を登用していただきたい。ただ、職員の時間外労働時間の縮減については、丁寧に検証する必要があると感じます。

■ 読書は脳を鍛えるためのツールとして重要な物であるが、学校図書の間貸出冊数について、令和7年度の生徒の10冊という目標値達成に向けた、効果的な取り組みを期待します。

【施策4】 地域・家庭とともにある園・学校づくり

(1) 地域とともに歩む園・学校の教育

- ① 「地域とともにある学校づくり」の推進
- ② 地域の特色を活かした学校運営協議会活動の推進

【主な取組と成果】

① 「地域とともにある学校づくり」の推進

教育振興事業

(旧 教育振興管理事業)

令和4年度決算額	2,927千円	(前年度決算額)	10,710千円
----------	---------	----------	----------

「地域とともにある学校づくり」の推進を図るため、全ての小学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を設置し、3校（鳥羽小学校・加茂小学校・安楽島小学校）にコミュニティ・スクールディレクターを配置しました。

放課後子供教室推進事業

令和4年度決算額	2,096千円	(前年度決算額)	576千円
----------	---------	----------	-------

地域の参画を得ながら、主に水曜日に加茂小学校区の「かもっこ」、安楽島小学校区の「あらっこ」、鳥羽小学校区では学期末の早く下校する日に「とびっこ」放課後子ども教室を開催し、放課後の安全安心な居場所づくりに努めました。

青少年サポートセンター運営事業	令和4年度決算額	55千円	(前年度決算額)	42千円
-----------------	----------	------	----------	------

青少年サポートセンターでは行政、学校、家庭、警察から推薦をいただいた51人を指導員として委嘱しました。小学校下校時間に合わせて青色パトロールを行い、子どもたちの安全・安心に努めました。7月には2年ぶりに青少年非行防止活動夏季強化期間として鳥羽ショッピングセンターハロー玄関前において、啓発活動を実施しました。

昨年度に引き続き、赤崎まつりやみなとまつりの開催が中止となったため、祭りのときに行っていた夜間パトロールは実施しませんでした。

② 地域の特色を活かした学校運営協議会活動の推進

活力ある学校づくり推進事業	令和4年度決算額	1,364千円	(前年度決算額)	803千円
---------------	----------	---------	----------	-------

特色ある学校活動を実践することで、児童の活力を引き出す学校づくりを推進しました。

- ・鳥羽小学校 地域とともにある学校づくり推進事業など
- ・答志小学校 島っ子ガイド推進事業、海の子フェスタと防災集会事業など
- ・神島小学校 神島っ子ガイド事業、島っ子太鼓など
- ・菅島小学校 地域とともにある学校づくり推進事業など
- ・安楽島小学校 地域体験学習（アサリの養殖体験等）、芸術鑑賞会など
- ・加茂小学校 地域産業体験学習（稲作体験学習、畑作体験学習）など
- ・弘道小学校 地域ふるさと学習、CS推進事業

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
学校運営協議会設置小学校数	1校	7校	7校
郷土学習をもとにしたガイド活動などの発信活動を実施した小学校数	2校	3校	7校

【自己評価と今後の取組み】

- ・ 少子化に伴い、学校運営が成り立たなくなっていることから、すべての小学校にコミュニティ・スクールディレクターを配置し、そのコーディネートによって、地域の方々に学校運営に携わっていただきながら、より地域に根差した教育活動を進めていく必要があります。
- ・ 地域の特色や体験学習などを行い、子どもたちが地域について学び発信することにより、地域の未来について考え行動する力を身につけ、持続可能なものにしていく取組みを進めます。

【委員からの意見等】

<委員 A>

■ 学校運営協議会については、制度定着の様子を窺うことができる。また、青少年健全育成関連の活動が再開されつつあることも、地域一体での教育の展開には貢献するものと思われる。全体として、適切に執行されている。

<委員 B>

■ 市内すべての小学校に「学校運営協議会」が設置され、その体制が整備されたと思う。今後は、それぞれの地区の特性を踏まえて「地域の学校」として、そこに住む方々の知識・経験・技能を活用できるシステムの構築、発展を期待したい。

(2) 家庭・地域と連携した幼児教育

- ① 幼稚園における教育の充実
- ② 家庭・地域との連携の推進
- ③ 子どもの発達等の多様性に対応した教育の提供
- ④ 将来を見据えた公立幼稚園のあり方

【主な取組と成果】

① 幼稚園における教育の充実

幼稚園教諭の資質向上を目指し、2学期に「指導主事」等の要請訪問を行い、幼児教育で大切な5つの領域をねらった実践の充実を図りました。また、幼小中の連携として交流活動や相互の授業参観など実施しました。

幼稚園管理業務

令和4年度決算額	35,629 千円	(前年度決算額)	44,038 千円
----------	-----------	----------	-----------

② 家庭・地域との連携の推進

生活習慣チェックシートの活用や保健だよりを発行するなど、子どもたちの様子を家庭に伝え、家庭での様子を聞かせてもらう「対話的」な関わり合いができました。

③ 子どもの発達等の多様性に対応した教育の提供

「みえ発達障がい支援システムアドバイザー」との連携により、子どもの情報を共有することができました。また、3学期には小学校へ入学する子どもたちの情報を確実に共有するため、学校教員に引き継ぐ場を設けることができました。

④ 将来を見据えた公立幼稚園のあり方

幼稚園への入園希望者が減少傾向にある中、本市における幼児教育・保育の運営体制等に関して、早急に検討していく必要があります。現施設の安全性や保育所の動向等を踏まえながら、「鳥羽市子ども子育て会議」を始めとした関連機関に対して、積極的に投げかけていきます。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
家庭・地域と協働して実施した体験活動の回数	10回／年	17回／年	11回／年

【自己評価と今後の取組み】

- ・かもめ幼稚園の令和4年度の在園児数は、24名と前年度と比べ5名の減少となりました。一方で預かり保育を希望する園児数は20名と割合が高く、共働き世帯の増加による保育ニーズの高まりが顕著なものとなっています。
- ・保育所を所管する子育て支援室との連携を深め、子育て世代からの幼児教育への要望などを的確に把握しながら、幼児教育・保育施設の適正配置と運営体制を検討していきます。
- ・特別な支援を要する就学前の子どもに関する情報を各校・園・所と共有し、鳥羽市就学指導委員会において、外部専門機関の助言等を踏まえ、個に応じた最適な学びが提供できるよう取り組んでいきます。また、今後も保幼小中の連携が確実に行われるよう働きかけを継続していきます。

【委員からの意見等】

<委員 A>

- 家庭・地域と協働して実施した体験活動の回数が17回/年と目標値（11回/年）を大きく上回っていることから、充実の様子が見られる。
- 将来を見据えた公立幼稚園の在り方については、就学前教育・保育のニーズを見極めながら適切に対応いただきたい。

<委員 B>

- 市としての少子高齢化の進み方や、幼稚園の入園児の減少からも、鳥羽市の幼児教育・保育の運営体制の見直しは重要課題であります。

（3）安全・安心・快適な教育環境の整備

- ① 災害に強い学校づくり、人づくり
- ② 学校の適正規模・適正配置
- ③ 学校施設の長寿命化の推進
- ④ 学校、幼稚園施設の機能向上
- ⑤ ICTの基盤整備と利活用の促進
- ⑥ 学校における働き方改革の推進

【主な取組と成果】

① 災害に強い学校づくり、人づくり

学校安全総合支援事業	令和4年度決算額	1,358 千円	(前年度決算額)	1,701 千円
------------	----------	----------	----------	----------

各小中学校においては、「鳥羽市防災・減災プラン集 明日へのつばさ」を活用し、授業実践を行ったほか、ESDの視点に立った防災・減災教育について、有識者を招き、教育関係者に向けた講演会を開催しました。

また、学校防災アドバイザーの指導助言のもと、児童生徒が主体的に防災・減災に取り組む活動を行いました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 4 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
地震や津波など災害時に地震がとるべき行動や避難場所ができている児童・生徒の割合	—	100 %	100 %

② 学校の適正規模・適正配置

令和 3 年 2 月に策定した「鳥羽市小中学校統合計画」（令和 3 年度～令和 12 年度）では、小学校の適正配置となる学校数は 7 校で、中学校の適正配置となる学校数は 2 校と示しています。

令和 6 年 4 月に計画していた「加茂中学校」と「鳥羽東中学校」との学校統合再編は、加茂小学校区に居住する保護者や自治会の皆さまのご意見を伺いながら、通学路の安全確保が見込まれる令和 8 年 4 月に方針変更しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 4 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
市内小中学校数	小学校 8 校 中学校 5 校	小学校 7 校 中学校 4 校	小学校 7 校 中学校 2 校

③ 学校施設の長寿命化の推進

中学校管理業務

令和 4 年度決算額	76,216 千円	(前年度決算額)	80,084 千円
------------	-----------	----------	-----------

「鳥羽市教育施設等長寿命化計画」に基づきながら、令和 8 年 4 月からの新中学校の設立を控え建築後 44 年を経過する「鳥羽東中学校」の大規模改修の設計業務に着手しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 4 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
長寿命化に向けた施設改修の実施施設数	—	小学校 0 校 中学校 0 校	小学校 1 校 中学校 1 校

④ 学校、幼稚園施設の機能向上

小学校管理業務	令和4年度決算額	91,603千円	(前年度決算額)	75,009千円
中学校管理業務	令和4年度決算額	76,216千円	(前年度決算額)	80,084千円
幼稚園管理業務	令和4年度決算額	35,629千円	(前年度決算額)	44,038千円

快適な施設環境を維持するため、安楽島小学校高架水槽廻りの給水管を改修したほか、鳥羽小学校特別支援室のエアコン取替えや弘道小学校への網戸設置を行いました。

また、中学校管理については、鳥羽東中学校及び答志中学校の消火栓配管のほか、神島小中学校職員住宅（校長住宅）トイレなども改修しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
小中学校、幼稚園における児童・生徒・園児用トイレの洋式化率	52%	57%	65%

⑤ ICTの基盤整備と利活用の促進

小学校 ICT 教育推進事業 (旧 高度情報通信システム利用教育事業)	令和4年度決算額	4,256千円	(前年度決算額)	3,577千円
--	----------	---------	----------	---------

中学校 ICT 教育推進事業 (旧 コンピュータ教育事業)	令和4年度決算額	2,971千円	(前年度決算額)	2,252千円
----------------------------------	----------	---------	----------	---------

GIGA スクール構想における児童向け一人1台端末整備に伴う通信ネットワーク環境や端末管理に係るサポート業務契約などの ICT 教育環境を整備しました。

また、中学校では、地方創生臨時交付金を活用してタブレット端末用アプリを導入し、英語4技能のトレーニングを行い、効率的な英語学習を進めました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
校務支援システム導入校数	—	小学校 7校 中学校 4校	小学校 7校 中学校 2校

⑥ 学校における働き方改革の推進

「鳥羽市立学校における教育職員の在校時間の上限等に関する規則」および「鳥羽市立小中学校における教育職員の在校時間の上限等に関する方針」に基づき、教職員の業務負担の軽減を図り、限られた時間の中で授業の改善や子どもたちと向き合う時間の確保に努めました。

【自己評価と今後の取組み】

- 学校の適正規模・適正配置として、令和4年4月から長岡中学校と鳥羽東中学校との統合再編を行いました。小中学校統合計画では、令和6年4月に鳥羽東中学校と加茂中学校との学校統合再編を予定していましたが、加茂地区に居住する児童・生徒の保護者や地域の方々と意見を交える中で、学校統合再編時期は、通学路の安全確保と鳥羽東中学校の大規模改修が完了した後の「令和8年4月」が望ましいとの結論に至りました。その上で、令和6年度から令和7年度の2カ年に限り、加茂小学校区から「加茂中学校」または「鳥羽東中学校」のどちらかへの就学が可能となる「学校選択制」を採用することとしました。
- 校務のICT化による教職員の負担軽減や業務効率化を図るため、情報管理の一元化によるセキュリティ向上のため、令和4年度に校務支援システムの導入を行い、令和5年度からの本稼働を目指します。
- 学校における働き方改革の推進では、ICT教育の推進、スクールサポートスタッフの活用、部活動ガイドラインの遵守等により、令和3年度より小学校で月平均1.2時間、中学校で0.6時間の削減となりました。今後、さらにICT教育環境の整備、効果的な人的配置、教職員の意識改革を進め、総勤務時間縮減に取り組んでいきます。

【委員からの意見等】

<委員A>

- 防災教育については継続的な取り組みが実施されており、引き続き政策の継続を望む。また、施設設備の充実については、市当局との調整において教育委員会からの積極的な要望提出を期待する。
- 学校の適正規模・適正配置については、保護者や地域住民との丁寧な対話の中で進められているため、今後とも児童生徒の教育実態を踏まえた意見交換を継続していただきたい。

<委員B>

- 学校の適正規模・適正配置について、令和6年度の統合を地域の実情、登校道路の実態を考え、2年間先送りした柔軟さは良かったと思う。
- 各学校が取り組んでいる「防災・減災」教育の推進にとって「鳥羽市防災・減災プラン集 明日へのつばさ」は有意義なものであります。作成されてからの時間経過もあり、活用のマンネリ・硬直化を防ぐために、各小中学校で子ども達や地域の実態合わせて、効果的なものとなるよう検証修正を実施したことは意義のあることであった。
- 働き改革に取り組んで久しくなってきました。部活動ガイドラインの導入、さらに管理職を始め、ミドルリーダー等の意識も変革でき、数値的にも小中ともに縮減ができています。今後も教職員の心身の健康の視点に立ち、実際の勤務実態との整合も点検してもらいたいと思います。

【施策5】生涯学習やスポーツの推進

(1) 社会教育施設の充実と活用

- ① 鳥羽市立図書館の充実
- ② 文化財の展示収蔵施設の整備・活用
- ③ 公民館やコミュニティアリーナの活用

【主な取組と成果】

① 鳥羽市立図書館の充実

図書館運営事業	令和4年度決算額	35,531千円	(前年度決算額)	37,741千円
---------	----------	----------	----------	----------

第3次子ども読書活動推進計画に基づき、小・中学校へのブックトークや図書館での絵本と紙芝居の読み聞かせ、おはなし会等を開催し、読書に親しむ機会づくりを提供しました。また、新刊案内や図書館行事などの情報発信として、ツイッターを開始しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
鳥羽市立図書館の来館者数	75,704人	61,901人	78,000人

② 文化財の展示収蔵施設の整備・活用

文化財保存推進事業	令和4年度決算額	15,558千円	(前年度決算額)	9,900千円
文化財収蔵展示施設運営管理費	令和4年度決算額	2,799千円	(前年度決算額)	2,799千円

国の重要文化財建造物に指定されている丸山庫蔵寺本堂・鎮守堂の防火設備の改修事業（国庫補助事業）に対し支援を行ったほか、国の補助事業として実施している登録有形文化財「旧鳥羽小学校校舎」の保存活用事業として、外壁修理を実施しました。

展示施設の一つである「鳥羽大庄屋かどや」では、指定管理制度を活用した管理運営を実施しています。総入館者数は4,941人で、様々な展示やイベント・教室などを開催しています。

③ 公民館やコミュニティアリーナの活用

公民館維持管理事業	令和4年度決算額	8,501千円	(前年度決算額)	9,230千円
公民館活動推進事業	令和4年度決算額	464千円	(前年度決算額)	464千円
コミュニティアリーナ維持管理事業	令和4年度決算額	3,127千円	(前年度決算額)	3,250千円

現在、設置している市民文化系施設（集会施設）は、公民館分館20施設とコミュニティアリーナ4施設があります。

施設面では、老朽化が進行し、修繕に必要な経費は、年々増加傾向となっています。中央公民館堅神分館の浄化槽放流ポンプNo.1、No.2取替工事をはじめ、松尾分館、安楽島分館の浄化槽ばっ気ブロワー取替、小浜分館の小便器修繕、奥谷分館の屋根外壁等を修繕するなど、緊急性、危険性のあるものを優先的に対応しました。

また、離島地域における地域・学校のスポーツ活動、生涯学習の活動拠点として、幅広く利用されているコミュニティアリーナの維持管理に努めました。

【自己評価と今後の取組み】

- ・図書館では、新型コロナウイルス感染症の影響により延期や中止となる行事もありましたが、一部利用制限を設けるなど感染症対策に取り組みながら開館を継続し、サービスの継続を実施しました。今後も環境の整備と資料の充実に努めます。
- ・文化財は旧鳥羽小学校を中心に市内の指定文化財等の保存事業を実施しました。今後も引き続き、旧鳥羽小学校の改修やその他文化財の維持管理、調査等を行います。
- ・地域の交流の場として、公民館やコミュニティアリーナの維持管理を行います。

【委員からの意見等】

<委員A>

■新型コロナウイルス感染症の影響は残りつつも図書館・公民館等の社会教育施設は十分に活用されており、また、文化財の保存についても教育委員会として適切に対処されている。

<委員B>

■新型コロナウイルス感染症による、各施設の活動内容の中止があったことは、やむを得ないものでありました。引き続き感染症対策は講じつつ、少しずつ活動の幅が広がるような工夫をお願いしたい。

(2) 感性を育むアートに親しむ創作機会や環境の創出

- ① アートに触れ合う
- ② 市民との交流の創出
- ③ 展示場・アトリエの整備

【主な取組と成果】

① アートに触れ合う

市民文化祭を開催するため、鳥羽市文化協会へ補助をする予定で準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。

② 市民との交流の創出

生涯学習推進事業	令和4年度決算額	2,030 千円	(前年度決算額)	1,260 千円
----------	----------	----------	----------	----------

生涯学習特別講座として「SNS活用ワークショップ インスタグラマーから学ぼう！ “映える” “エモい” 写真ワークショップ」を2日間で3回開催し、延べ48人のかたに参加いただきました。SNSの正しい活用を身に付けていただくとともに鳥羽の紹介したくなるようなところを見つけていただくことで、改めてふるさと鳥羽の魅力を感じてもらえる機会の創出につながりました。

また、20歳のかたを対象に「20歳（ハタチ）の会」を開催し、157人の参加をいただきました。

式典では20歳に該当する7人の実行委員を中心に式典内容を企画し、実行委員が作成した動画は大変盛り上がり、有意義な式典となりました。

③ 展示場・アトリエの整備

博物館運営事業	令和4年度決算額	22,355 千円	(前年度決算額)	10,582 千円
---------	----------	-----------	----------	-----------

現役海女さんによる教育旅行団体向けガイドを実施するほか、市立海の博物館の運営や活動方針について検討や協議を行うため、博物館に関係する関係者で組織する「鳥羽市立海の博物館運営協議会」を開催しました。

ハード面では、床タイルカーペットの張替え工事を行いました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 4 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
アート関係のワークショップ参加者数	0 人	134 人	200 人

【自己評価と今後の取組み】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、対面で行う講座や多くの人が集まる市民文化祭の開催は中止となりましたが、引き続き、子どもたちや市民の方々に、モノづくりや文化芸術作品に接する機会を提供していきます。

【委員からの意見等】

<委員 A>

■新型コロナウイルス感染症のため中止せざるを得ないイベントはあったものの、その他の取組み等、適切に執行された。市立海の博物館はまちづくりの観点からも利用者の増加が期待できる施設であると思われるので、引き続き適切な運営を期待したい。

<委員 B>

■新型コロナウイルス感染症による活動中止があったことはやむを得ないものでありました。引き続き感染症対策は講じつつ、「SNS 活用ワークショップ インスタグラマーから学ぼう!」といった楽しい企画が少しずつ広がるような工夫をお願いしたい。

(3) 人財や文化財を活用した生涯学習

- ①生涯学習活動の充実
- ②地域人材の発掘・育成
- ③文化財の保存と活用の推進
- ④市の歴史文化遺産の語り部の育成

【主な取組と成果】

① 生涯学習活動の充実

現在、生涯学習講座は、運動施設指定管理者の自主事業として、書道教室やヨガ教室など 15 講座を開講し、延べ 1,266 人の参加がありました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和 4 年度 (実績値)	令和 7 年度 (目標値)
生涯学習講座から新たに立ち上がる自主活動の数	0 件	0 件	5 件

② 地域人材の発掘・育成

社会教育関係団体育成事業	令和4年度決算額	915 千円	(前年度決算額)	796 千円
--------------	----------	--------	----------	--------

社会教育活動の充実を図るため、関係団体の活動に対して補助金を交付し、青少年の健全育成や歴史文化活動を支援しました。助成団体の一つである「青少年育成市民会議」では、子ども達へ伝統文化に触れる機会を創出するため、みんなで凧作り教室、新春凧あげ大会を実施したほか、「恐竜研究振興会」では、親子化石採集会や化石レプリカ作りを行いました。

③ 文化財の保存と活用の推進

国登録有形文化財である旧鳥羽小学校校舎の外壁改修や屋上防水工事に着手するほか、鳥羽城址への来訪者の安全を確保するフェンスを設置するなど、鳥羽城址周辺の環境整備に努めました。

令和4年度には、新たに菅島灯台が重要文化財に指定されました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
指定文化財の数	72 件	74 件	75 件

④ 市の歴史文化遺産の語り部の育成

人材育成を目的とした地球塾のほか、子どもたちの郷土愛醸成のため、とばっこ検定を実施しました。

【自己評価と今後の取組み】

生涯学習講座におきましては、指定管理者において多様な講座を実施しています。今後も指定管理者と協議を行い、より良い講座が実施できるように努めます。

【委員からの意見等】

<委員 A>

■適切な運営が見受けられる。社会教育活動の充実に資する人材や団体の育成は、社会教育の継続性の観点から重要な事業であるため、今後とも発展させていただきたい。

<委員 B>

■旧鳥羽小学校校舎の保存や環境整備の動きはあるものの、その活用についての展望がなかなか具体的なものとして示されていない。行政として展望をもっていないのか、そこへ持っていく財政的な問題があるのか、いずれにしろなかなか今後のビジョンが見えてこないのは、見通しとしてどうなっているのかという疑問がある。

(4) 生きがいと活力を育む生涯スポーツの推進

- ① スポーツ活動に取り組める環境づくり
- ② 地域スポーツと学校部活動の連携
- ③ 運動と食事・栄養への取組
- ④ 表彰制度の拡充
- ⑤ ジュニアスポーツ応援事業
- ⑥ 三重とこわか国体の開催とレガシーの継承
- ⑦ スポーツ用具などの計画的な整備
- ⑧ 市民がつながる機会づくり

【主な取組と成果】

① スポーツ活動に取り組める環境づくり

生涯スポーツ振興事業	令和4年度決算額	5,479 千円	(前年度決算額)	3,943 千円
学校体育施設開放事業	令和4年度決算額	1,184 千円	(前年度決算額)	1,332 千円
学校体育振興事業	令和4年度決算額	2,730 千円	(前年度決算額)	2,485 千円

新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じた制限や対策を講じながら、各種大会を開催し、スポーツに親しむ機会が戻りつつありました。

そのような状況の中、全国大会で活躍する小・中学生、高校生が増加しました。

項目	回数（回）	参加者延べ人数（人）
学校体育施設開放校数（校）	8校	22,208人

② 地域スポーツと学校部活動の連携

中学校の休日部活動の地域移行について、令和5年度から令和7年度の3年間で改革推進期間とされている中、鳥羽市部活動検討委員会を設置し、部活動の地域移行に向けたあり方や取組方策の検討を開始しました。

③ 運動と食事・栄養への取組み

子どもたちへのスポーツ指導を担う鳥羽市スポーツ少年団及び三重県スポーツ少年団に登録する指導者を対象に「こころとからだをを育む少年期のスポーツ」をテーマとした研修会を開催しました。

④ 表彰制度の拡充

市民体育大会事業	令和4年度決算額	179千円	(前年度決算額)	19千円
----------	----------	-------	----------	------

新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの開催となりましたが、総合開会式は実施しませんでした。

全国・東海大会等で優秀な成績を収めた選手やスポーツ振興に功績のあったかたに表彰状等を授与するほか、その功績を「広報とば」に掲載しました。

項目	選手	団体
スポーツ優秀選手・団体表彰	14人	1チーム

⑤ ジュニアスポーツ応援事業

生涯スポーツ振興事業	令和4年度決算額	5,479千円	(前年度決算額)	3,943千円
------------	----------	---------	----------	---------

フェンシング競技とレスリング競技に対して、ジュニアへの支援を継続しています。

各種大会や合同練習会などにも参加するほか、活躍する選手を招いての講習会を開催することで、技術や競技力の向上を図ることができました。

これからも、一流アスリートが誕生するよう、バックアップできる環境づくりに努めていきます。

⑥ 三重とこわか国体の開催とレガシーの継承

東京オリンピックで山田優選手が成し遂げた金メダル獲得を契機に、フェンシング競技の普及・発展と次世代フェンサーの育成を目的にフェンシングの全国大会を開催しました。

啓発イベントの開催・関係機関等の連携イベント

名称	参加人数	実施場所
鳥羽フェンシング大会	112人	鳥羽市民体育館
チャンバラフェンシング	39人	鳥羽市民体育館サブアリーナ

その他

名称	実施場所	内容
合宿の受け入れ	市民体育館	競技力の向上を目的に、中高生を対象とした強化合宿の受け入れ

⑦ スポーツ用具などの計画的な整備

運動施設管理運営事業	令和4年度決算額	37,466千円	(前年度決算額)	40,494千円
------------	----------	----------	----------	----------

運動施設については、引き続き、三幸（株）を指定管理者とし、民間のノウハウやアイデアを活かしながら施設の管理運営を行いました。

また、鳥羽中央公園庭球場フェンスの修繕や地方創生臨時交付金を活用した体育館へのオンライン設備の導入により、施設の利便性の向上と環境整備を図りました。

⑧ 市民がつながる機会づくり

地域活性化起業人推進事業	令和4年度決算額	5,633千円	(前年度決算額)	5,655千円
--------------	----------	---------	----------	---------

パークリノベーション108プロジェクトワークショップの結果をもとに、課題解決に向けた取り組みのアドバイスをいただきました。また、ふるさと納税寄贈額増加策などの実施により、関係人口の創出に寄与しました。

成果指標名	令和元年度 (現状値)	令和4年度 (実績値)	令和7年度 (目標値)
運動施設利用者数（市内在住者）	31,196 人	41,304 人	52,000 人
運動施設利用者数（市外からの利用）	1,717 人	9,596 人	3,000 人
総合型地域スポーツクラブ数	1 団体	2 団体	3 団体

【自己評価と今後の取組み】

コロナ禍ではあったものの、感染対策を実施しながらスポーツ活動に親しむ機会を創出したことにより、少しずつ活気が戻り始めた年度でした。具体的には、学校開放施設を利用し、スポーツを楽しむかたが増加したことや、新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送っていた市民体育大会について、競技団体の意向を確認し、開催可能な種目については開催することができました。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に引き下げられ、通常の生活に戻りつつあります。今後は、生涯スポーツ振興の観点から、子どもから高齢者までライフスタイルに応じてスポーツに親しめるような環境づくりを各種団体と連携・協力しながら取り組んでいきます。

また、中学校の休日部活動の地域移行について、令和5年度から令和7年度の3年間は改革推進期間とされている中、「鳥羽市部活動検討委員会」を設立し、部活動の地域移行に向けた取組を開始しました。令和4年度に2回、令和5年度に5回開催し、委員会での意見等をまとめ、「中学生世代の新たな地域クラブ活動準備計画（案）」を策定したところです。今後、同計画に基づき、中学校の休日部活動の地域移行を進めていきます。

【委員からの意見等】

<委員A>

■スポーツ推進については適切且つ積極的な事業展開を確認することができる。ジュニアスポーツから学校体育（部活動、スポーツ活動）、高齢者を含めた市民スポーツ等、バランス良く企画・実施されている。

<委員B>

■運動施設利用者数(市内在住者)の数字は、平成3年度 58,358人、本年度 41,304人というものであった。これは、令和元年度の 31,196人と比べて、大幅な伸びとなっている。しかし、実態はコロナワクチン接種会場としての一面が、その伸び幅には含まれており、令和4年度の実態は、マイナス 10,000人で、実質約 30,000人という事なら、令和7年度の数値目標「52,000人」からは、かなり低い実態という事になる。指定管理者「三幸」に運営の丸投げだけではなく、指定した鳥羽市として、成果目標値に近づけるよう、連携、協力の必要性を感じた。

【その他の施策】

寝屋子の島留学事業

1 目 的

この制度は、鳥羽市立答志小学校・答志中学校に島外（市外）から入学又は転学を希望する児童・生徒（以下「児童」という）を島親が受け入れる島親留学、保護者と移住してくる家族留学、祖父母のもとで孫を預かる孫留学を実施し、豊かな自然の中で相互の教育効果の向上を図るとともに、教育の振興充実を期することを目的とする。

2 募集基準及び決定方法

この制度により受け入れる児童は次のとおりとし、受け入れ前に寝屋子の島留学実施委員会（以下、「実施委員会」という）が面談の上、決定する。

- (1) 地域の環境を理解し、就学を希望する児童。
- (2) 第二のふるさとを求め、答志島の大自然の中で豊かな思い出を作ろうとする児童。
- (3) 少人数教育でしっかり学び、学力を伸ばしたい児童。
- (4) 答志中学校区に通学したことがない児童。
- (5) 市外に住所を有する児童であって、家族留学及び孫留学は小学1年生から中学3年生まで、島親留学は小学5年生から中学2年生までとする。
- (6) 実施委員会が認めた場合。

平成30年	家族留学1名（小学1年生）
令和元年	家族留学1名（継続） 島親留学2名（小学6年生）
令和2年	家族留学3名（小学4年生、中学1年生、中学3年生） 島親留学1名（中学2年生）
令和3年	孫留学1名（中学1年生：7月から）
令和4年	孫留学1名（中学2年生）
令和5年	孫留学1名（中学3年生） 家族留学3名（小学2年生・小学5年生・中学2年生）

令和2年度以降コロナウィルス感染症対策により、島親留学募集は見送り。

【委員からの意見等】

<委員A>

■寝屋子の島留学は鳥羽市の特徴ある教育事業となりうるものと思われる。今後とも事業が継続されることを期待する。

<委員B>

■コロナあけを見通し、寝屋子の島留学事業の目的に鑑み、相互の教育効果の向上と教育の振興充実が図られることを期待します。

【報告書全体を通しての意見】

<委員 A>

■新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う制限があったものの、全体的には事業の大きな遅延や見直しは少なく、教育委員会事務は適切に執行されていた。一方で、文部科学省においては、部活動の在り方や教職員の働き方、個別最適な学習の提供、新学習指導要領の制定に向けた動き等、新たな教育政策が展開され続けているため、教育委員会においては調査・研究のうえ、所掌機関に対して指導や支援を提供いただきたい。

<委員 B>

■この「鳥羽市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書」は、昨年度に一新された「第2次鳥羽市教育ビジョン」の2年目の事務に関しての令和5年度(令和4年度実績)のものである。項目ごとに掲げられた令和7年度の数値目標に向けて、順調な2年目となったものと、停滞若しくは後退しているものがある。改めて精査し、次年度に繋げて行ってもらいたい。しかし、その意味では、この報告書の作成が昨年度よりもさらに遅く、令和6年となってからとなった。その自己評価や点検者の意見が、次年度に反映させるためにはあまりに時間がないし、報告書作成が目標となっていないか、本来の改善につながるのだろうかとの思いともなった。ついては、サブタイトル「多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成」の具現化に向けて、時期も含めて、子どもを中心に据えて、関係機関がさらに深く連携していくことを望みます。